

財政援助団体（補助金）の監査結果に関する報告

平成 30 年 5 月 31 日現在における平成 29 年度に市が財政的援助を行っている団体のうち 3 団体を抽出して監査を実施したので、その結果について概要を述べる。

1 監査の対象団体

学校法人 大口明光学園高等学校
鹿児島県立 伊佐農林高等学校
鹿児島県立 大口高等学校

2 監査実施日

平成 30 年 8 月 28 日（火）

3 監査対象補助金

平成 29 年度 伊佐市魅力ある高校づくり補助金

4 補助金の目的及び対象等

伊佐市内の高等学校の存続を図るため、次の表のとおり補助金を交付している。

区分	対象経費	補助金額
鹿児島県立伊佐農林高等学校	1 魅力ある高校づくりに資するための事業に要する経費	予算の範囲内で市長が適当と認める額
	2 原動機付自転車により通学するために要する経費	生徒 1 人につき 10,000 円（在学中 1 回に限る）
	3 路線バスにより通学するために要する経費	定期券等運賃相当額の 2 分の 1
	4 学校が指定する検定試験又は資格取得試験を受験するために要する経費	試験 1 件につき 1,000 円。ただし、1 件の経費が 1,000 円未満の場合は、実費相当額とする。
鹿児島県立大口高等学校	1 魅力ある高校づくりに資するための事業に要する経費	予算の範囲内で市長が適当と認める額
	2 原動機付自転車により通学するために要する経費	生徒 1 人につき 10,000 円（在学中 1 回に限る）
	3 路線バスにより通学するために要する経費	定期券等運賃相当額の 2 分の 1
学校法人 大口明光学園高等学校	1 魅力ある高校づくりに資するための事業に要する経費	予算の範囲内で市長が適当と認める額
	2 原動機付自転車により通学するために要する経費	生徒 1 人につき 10,000 円（在学中 1 回に限る）

5 監査の方法

監査の対象となった補助金について、伊佐市補助金等交付規則及び伊佐市魅力ある高校づくり補助金交付要綱に準拠し事務処理が適正に行われているか、補助目的に沿った執行及びその効果はどうか、以下の関係書類の提出を求め、職員や関係者の説明を聴取するなどの方法により監査を実施した。

- ・補助金等交付申請書
- ・補助金等交付決定通知書
- ・補助金等概算払申請書
- ・補助金等概算払決定通知書
- ・補助金の請求及び交付
- ・預金通帳（写し）
- ・関係諸帳簿類
- ・その他実績等関係資料

6 事業実績及び監査の結果

(1) 学校法人 大日明光学園高等学校

ア 事業実績

魅力ある高校づくりに資するための事業については、「グローバル教育の推進」、「魅力向上への取り組み」、「広報活動」の3つの柱で取り組んでいる。

「グローバル教育の推進」の事業内容としては、小学4～6年生を対象とした英語暗唱大会の実施、英語検定試験への取り組み強化（英検ゼミの実施・個別指導）、英語による各種大会への出場、シンガポール修学旅行及び事前指導の充実、韓国語鹿児島大会出場などである。県中学英語ディベートコンテストで3位入賞、県中高生英語プレゼンテーションコンテストで中学生の部で1位、高校生の部で2位に入賞している

「魅力向上への取り組み」としては、宗教行事を通しての心の教育、全国小中学校リズムダンスふれあいコンクールへの参加、いさのおんがくたい実行委員主催のアウトリーチコンサート参加、伊佐市の桜まつり・夏祭り・本物感動フェスティバルへの参加などがある。また寮生活を通じて生活力・人間性を高める取り組みも行っている。

「広報活動」としては、伊佐市内3校合同説明会への参加、県下のすべての小中学校にパンフレット・生徒寮案内の配布、私立中高フェアへの参加、伊佐市ふるさと祭り会場にて学校紹介ブース設置、新聞折込チラシによるオープンスクール・明光祭・学校クリスマスの広報など積極的に活動した。

魅力ある高校づくりに資するための事業収支についてであるが、収入は市補助金1,000,000円と学生生徒納付金452,140円で収入合計は1,452,140円であり、支出

はグローバル教育の推進費に 424,838 円、魅力向上への取り組み費に 238,492 円、広報活動費に 788,810 円の支出合計 1,452,140 円となっている。

原付通学準備補助については、2 人へ助成しており事業収支は、収入として市補助金 20,000 円、支出として原付通学準備補助金 20,000 円となっている。

イ 監査の結果

監査の結果、補助事業が補助の目的に沿って適正に行われており、帳簿、証拠書類等について不備はなく良好に整備保管されていることを認めた。

今回の監査においての所見を以下に申し述べる。

この補助金は、学校の魅力を多くの人に知ってもらい生徒が増えることにより、学校の存続を図ることが目的であり、それに対し自由度の高い補助金を出している。よって生徒の獲得活動をどれだけしたかが重要になってくる。

各種の英語による大会で入賞していることも質の高い教育によるものであり、魅力のひとつであると考えるので、積極的に情報発信をしていただきたい。

また、大口明光学園高等学校には地域の英語教育のリーダーシップをとっていた大口高等学校や伊佐農林高等学校と連携・補完することにより、伊佐市全体の中高生の英語レベルが上がり、それを「魅力」として発信することで生徒の確保につながっていくと考える。

実績報告書について、英語暗唱大会や英検ゼミ等の参加人数、実施回数など記入し、事業内容や効果がわかりやすいようにしていただきたい。

(2) 鹿児島県立 伊佐農林高等学校

ア 事業実績

魅力ある高校づくりに資するための事業については、「地域農業支援活動」、「食農体験支援・研修活動」、「PR交流活動」、「部活動その他」の4つの柱で取り組んでいる。

「地域農業支援活動」の事業内容としては、地域農家との交流や農林館祭り、パンジー祭り、農林カフェの企画・運営、伊佐ふるさとまつり参加、鹿児島市で開催されたシクラメンフェアへの参加などである。

「食農体験支援・研修活動」としては、青春市場への出店、食文化伝承教室、課題研究発表会、収穫祭・田植えイベントの開催などがある。

「PR交流活動」としては、姪良市で開催された地区専門高校フェスタへの参加や中学生一日体験入学、鹿児島水産高校とのピザ体験交流、農林館祭りチラシ作成・配布、学校案内パンフレットの作成・配布などがある。

「部活動その他」としては、カヌー大会への参加や平成30年度に伊佐農林高校で

開始される農業クラブ全国大会鹿児島大会の競技審査準備などがある。

魅力ある高校づくりに資するための事業収支についてであるが、収入は市補助金 1,000,000 円であり、支出は各活動に係る消耗品等の需用費に 553,040 円、学校案内パンフレットやチラシ等の印刷費に 302,000 円、バス借上げなどの交通費に 134,760 円、食文化伝承に係る講師謝金に 10,000 円の支出合計 1,000,000 円となっている。

原付通学準備補助については、20 人へ助成しており事業収支は、収入として市補助金 200,000 円、支出として原付通学準備補助金 200,000 円となっている。

通学費補助については市内生徒 6 人、市外生徒 11 人に助成しており事業収支は、収入として市補助金 703,860 円、支出として通学費補助金 703,860 円となっている。

資格取得補助については、171 人に助成しており事業収支は、収入として市補助金 328,400 円、支出として資格取得補助金 328,400 円となっている。

イ 監査の結果

監査の結果、補助事業が補助の目的に沿って適正に行われており、帳簿、証拠書類等について不備はなく良好に整備保管されていることを認めた。

今回の監査においての所見を以下に申し述べる。

この補助金の目的である学校の存続、生徒の確保ということを念頭に、その目的が達成されるよう有効活用していただきたい。

資格取得については伊佐農林高校の大きな魅力のひとつであるので、積極的に情報発信をしていただきたい。

実績報告書について、イベント等の参加人数や事業効果を記入し事業内容や効果がわかりやすいようにしていただきたい。

(3) 鹿児島県立 大口高等学校

ア 事業実績

魅力ある高校づくりに資するための事業については、「進学指導支援」、「中高連携支援」、「その他（広報活動等）」の 3 つの柱で取り組んでいる。

「進学指導支援」の事業内容としては、鹿児島大学オープンキャンパスへの参加（10 人）、夏トライグレードアップゼミ参加（30 人）、センター試験受験者への助成（18 人）などであり、学力の向上や進学に対する意識向上を図った。

「中高連携支援」の事業内容としては、中高生の部活動交流である大口高校旗争奪サッカー大会を開催し 8 校の参加があった。中学生のころに大口高校のグラウンドでサッカーをした生徒たちが入学してきており、今年の 1 年生はサッカー部に 20 人程度が入部している。

「その他（広報活動等）」の事業内容としては、学校案内リーフレットの作成、文化祭案内チラシ作成、生徒と大学生とのもみじ祭り連携などである。

魅力ある高校づくりに資するための事業収支についてであるが、収入は市補助金 1,000,000 円であり、支出は進学指導支援に 383,520 円、中高連携支援に 112,583 円、その他（広報活動等）に 503,897 円の支出合計 1,000,000 円となっている。

原付通学準備補助については、33 人に助成しており事業収支は、収入として市補助金 330,000 円、支出として原付通学準備補助金 330,000 円となっている。

通学費補助については、一番多い時期で 35 人に助成しており事業収支は、収入として市補助金 1,632,895 円、支出として通学費補助金 1,632,895 円となっている。

イ 監査の結果

監査の結果、補助事業が補助の目的に沿っておおむね適正に行われており、帳簿、証拠書類等について不備はなく良好に整備保管されていることを認めた。

今回の監査においての所見を以下に申し述べる。

この補助金の目的は学校の存続を図ることで、それは定員を確保するということであり、定員確保の手段として「魅力ある高校づくり」があると考える。

どうしたら定員を確保できるのか、進学校路線を打ち出すことで確保できるのか、その他の方法も含めて、今後教育委員会と学校とが意見交換をする場を設け検討されることを強く望む。

なお、センター試験受験者への助成は、魅力ある高校づくりの趣旨に沿っているかどうかとも検討していただきたい。

(4) 教育委員会総務課

ア 監査の結果

補助金の事務執行については、おおむね適正に処理され、帳簿については良好に保管されていることを認めた。

今回の監査においての所見を以下に申し述べる。

概算払いが数多く行われていることから、学校と協議し事務の簡素化を図られたい。

魅力ある高校づくり補助金要綱の中に通学費補助や原付通学準備補助があるが、魅力ある高校づくりの趣旨に沿っているかどうか、要綱の改正も含めて検討していただきたい。

学校に対してこの補助金の趣旨説明をすべきであり、また今までの取り組みを検証したうえで、今後の「魅力ある高校づくり」に向けて学校と意見交換をする場を設け、共通認識を持って取り組んでいくことを強く望む。